

私たちの食と命

3年2組13番 瀧友太郎

Keyword: 「命」「食品ロス」「感謝」「いただきます」

1. はじめに

皆さんが食べている普段の食事について、多くの人は食べる時、味や匂いなど、食べることに對して重要なことしか考えようとは思いません。しかし、その食べ物たちにもかつて命があり、生きていた、と言うことを忘れてはいけません。

今や日本では、毎年莫大な量の食べ物が廃棄されています。食べ物は食べ物としてしか見られておらず、動物たちの命の価値が軽視されています。

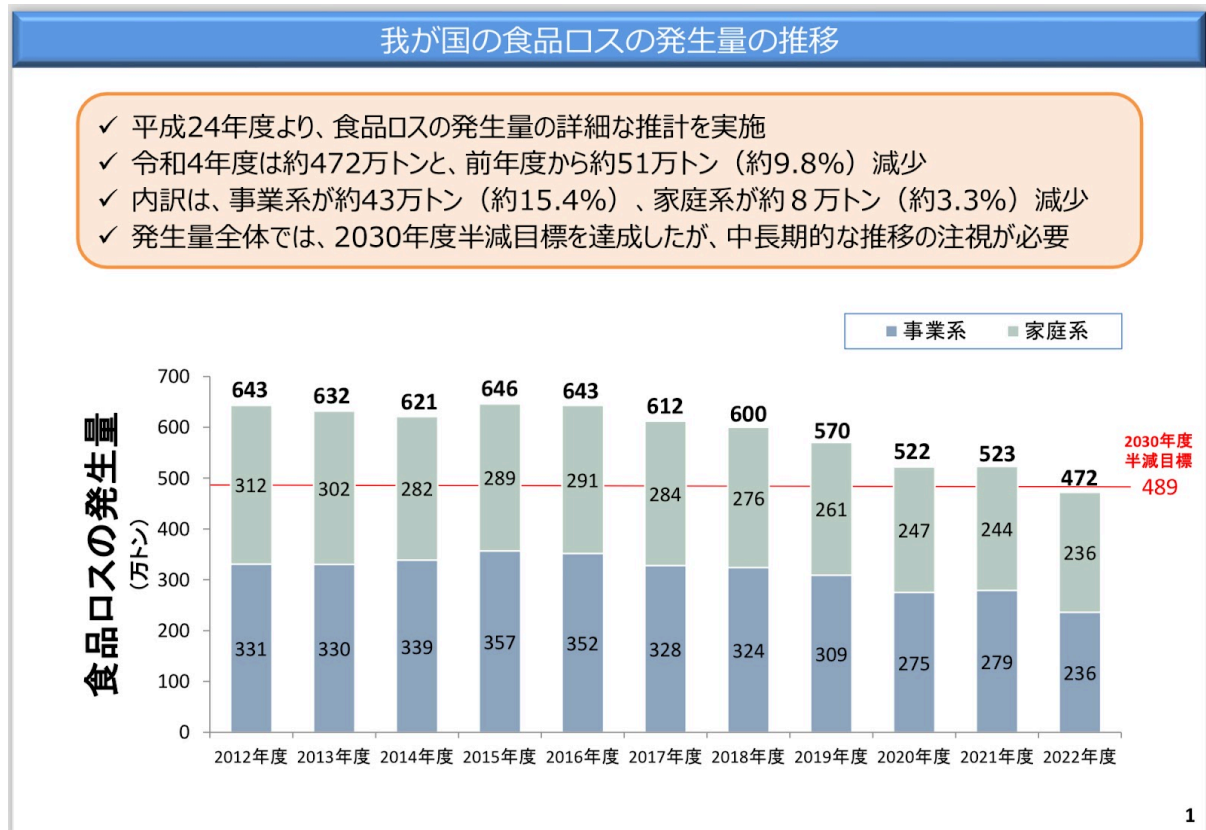
かく言う私も、出されたものを残したりといった行為をすることもありましたが、捨てられる食べ物のためだけに命を落とす生き物たちの存在を知った今、食べ物を残さないことはもちろん、「いただきます」の一言を必ず言うように心がけています。

私は、そんな動物たちのことについて探求しました。皆さんに彼らの存在を知ってもらい、少しでも食品ロスや、命を粗末にしないための意識を高めていくことができればと思います。

2. 序論

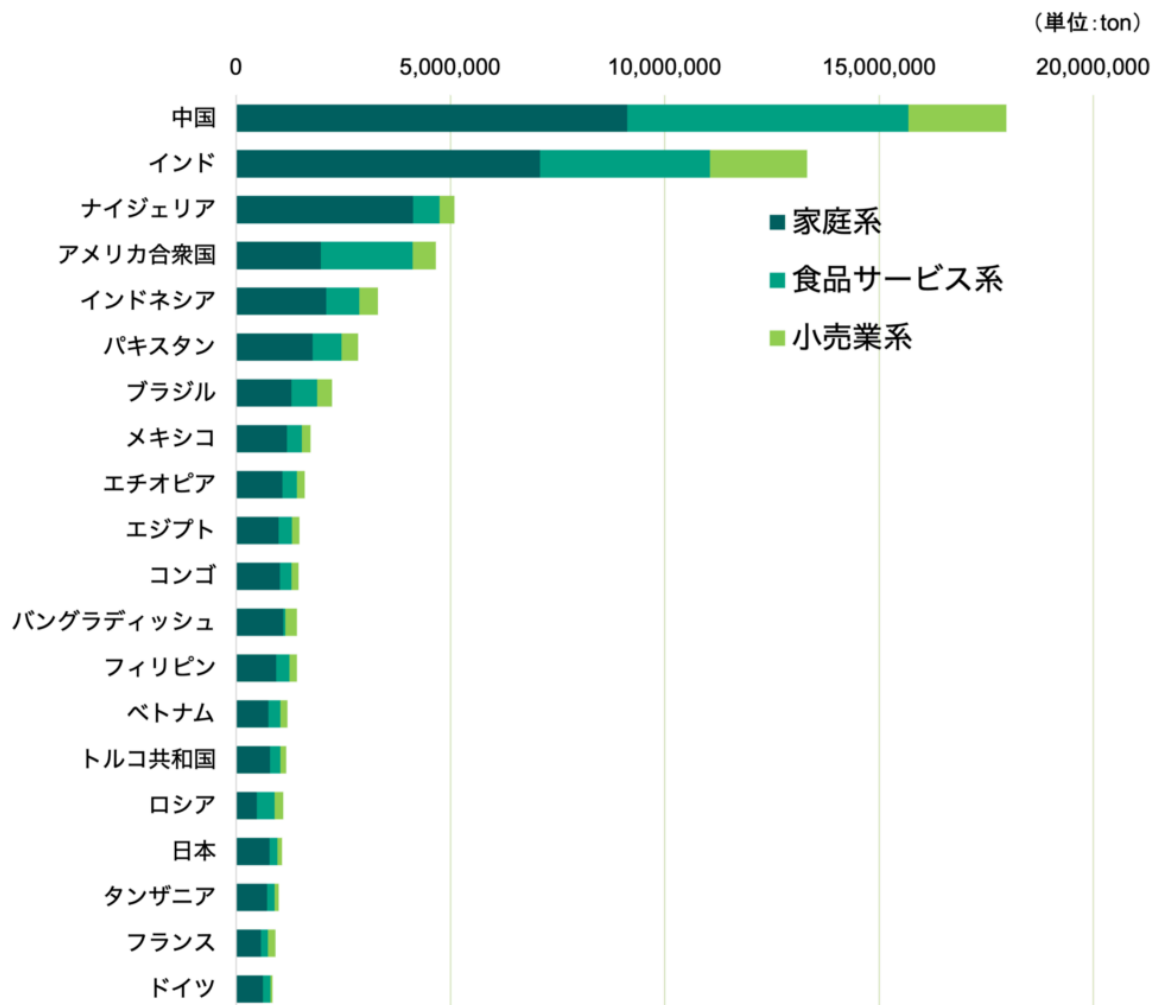
日本の年間食品廃棄量は令和3年度において、523万トンとなっており、家庭からのものについては244万トンにのぼります。一般的な家庭用浴槽で考えると、約12,200個分になります。この数字を聞いてどう思いますか？

平成から令和に遷るに伴って廃棄量は大きく減少しましたが、依然として高水準なままです。



また、世界基準で見ると、UNEPの発表によれば日本は世界第6位で、一人当たり64kgで、廃棄量世界一位の中国とほぼ同数でした。これはアジアで最も多い数字です。

食品ロス総量の世界ランキング(上位20カ国)



算出ロジック: 一人あたりの食品ロス量×人口
 参照データ: Food Waste: The Good, the Bad, and (Maybe) the Ugly
 外務省データ(<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/index.html>)

3. 本論

そこで、世界の食品ロスへの対策について調べてみました。

・アメリカ

テクノロジーを活用した食品ロス削減の取り組みとして、アメリカではフードロスアプリが人気を集めています。これらのアプリは、飲食店やスーパーが売れ残った食品を割引価格で消費者に提供することを可能にします。これにより、食品が廃棄されるのを防ぎつつ、消費者はお得に食品を手に入れることができます。また、これらのアプリは消費者の食品ロスに対する意識を高める役割も果たしています。

・ヨーロッパ

フランスでは、2016年に大規模スーパーに対し、廃棄を予定している未使用の食品をフードバンクや慈善団体に寄付することを義務づける法律が施行されました。

これにより年間で数千トンもの食品が無駄になることなく再利用されるようになりました。この施策は、食品ロス削減だけでなく、食料不足に悩む人々に対する援助の形となっています。

4. 結論

日本だけでなく、世界中の先進国で食品ロスは問題視されています。

一方で、発展途上国では依然として多くの人々が日々の食事に困難を抱えています。それだけでなく、私たちは、捨てられる食べ物のために命を落とす動物たちの存在も忘れてはなりません。

日本ではまだまだ食品ロスに対する意識が低いため、日常の中で（例えば昼食を買う時など）自ら意識して変えていくことが重要であり、食品ロスを減らすためには、私たち一人一人が行動を起こすことが求められています。

最後に、私から後輩たちへのアドバイスです。食べ物に対する感謝の気持ちを大切にしてください。「いただきます」という言葉には、食べ物の命に対する感謝や敬意が込められています。皆さんが毎日口にする食べ物がどこから来たのか、その背後にある命や努力を少しでも意識することが、食品ロスを減らす第一歩です。

これからの時代、私たち一人ひとりの行動が地球や社会に与える影響を考えることが大切です。皆さんもぜひ、できることから始めてみてください。

5. 参考文献

https://food.ec.europa.eu/food-safety/food-waste_en(EU公式Webサイト)

https://www.env.go.jp/press/press_03332.html (環境省)

<https://www.unep.org/resources/report/unep-food-waste-index-report-2021> ([UNEP Food Waste Index Report 2021](#))